2020 FUN&RUN! 2-Wheels [3]
in SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE
RACE // ROAD STAR // NEO STANDARD
8 Sat. August

イベント全体概要報告

■開催概要

●大会名称　：2020 FUN & RUN! 2-Wheels [3]
IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE
●開催場所　：鈴鹿サーキット・国際レーシングコース／東コース（2.243km）
●開催日　：2020年8月8日（土）
●天候　：晴れ時々曇り
●主催者　：株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット 三重県鈴鹿市稲生町7992
http://www.mobilityland.co.jp/suzuka/
●開催クラス：★総参加台数／157台
ROAD STAR CHALLENGER I…4台
ROAD STAR I…14台
ROAD STAR EXPERT I…12台
ROAD STAR II…7台
ROAD STAR EXPERT II…7台
FUN & RUN Mix Small／EXPERT…24台
ST250…7台
FUN & RUN Mix Big／EXPERT…27台
NEO STANDARD＜Ninja250R＞…13台
NEO STANDARD＜YZF-R25＞…13台
NEO STANDARD＜CBR250R＞…15台
NEO STANDARD＜VTR250＞…4台
NEO STANDARD＜G310R＞…10台

■次回開催予定
●大会名称：2020 FUN & RUN! 2-Wheels [4] Full Course Special IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE
●開催場所：鈴鹿サーキット・国際レーシングコース／フルコース（5.821km）
●開催日：2020年9月12日（土）
●開催クラス：NEO STANDARD（Ninja250R／YZF-R25／CBR250R／VTR250／G310R）
FUN & RUN Mix Small／EXPERT、ST250、FUN & RUN Mix Big／EXPERT
ROAD STAR WARS I、ROAD STAR WARS II

★レースリザルトは、インターネットでご覧いただけます。
リザルトページ　https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。
バトルファクトリーHP　http://www.battle.co.jp/

開催クラス紹介

【NEO STANDARD】

現在、各社から発売されている、手頃な車両価格で最も人気の高い4ストローク250ccマシンによるエントリークラス。カワサキNinja250R、ホンダVTR250、ホンダCBR250R、YZF-R25、BMW G310Rの５車種にクラス分けされています。
スプリントレースでありながら、途中ライダー交代またはピットインが必要となります。また、チームエントリーでシリーズ戦として開催し、車両別となったカテゴリーでのチャンピオンが決定するのも人気の理由。
ライダーを1大会2名まで登録することができ、チームとしても楽しめる、経済的なクラスとなっています。

●参加車両例
カワサキNinja250R　ホンダVTR250　ホンダCBR250R　ヤマハYZF-R25　BMW G310R

【ROAD STAR（CHALLENGER/EXPERT）I/II】

※CHALLENGERは“I”のみ

ROAD STAR WARS同様、一般公道走行が認められるナンバー付車両による競技です。ROAD STAR WARSとは違い、こちらは全て「タイムアタック形式」の競技となります。また、ライダーのスキルにより、入門者にはCHALLENGERクラスから、上級者にはEXPERTクラスまで幅広く参加できるクラスとなっています。

●参加車両例　ホンダCBR1000RR　ヤマハ YZF-R1　トライアンフ デイトナ675　ビューエル XB9S　スズキ TL1000S

【FUN&RUN Mix Big】

「Mix Big」は、国内外のV型2気筒エンジン搭載車と一般生産型の車両で4ストローク401cc以上のマシンなら何でも参加可能なクラス。
国内外メーカーのツインバイク、そしてビッグネイキッドが一堂に会するレースは迫力が違います。特に「C-OPEN」クラスは、排気量が2ストローク251cc/4ストローク401cc以上でホイールサイズが16インチ以上であればどんな車両でも参加可能なクラスです。

●参加車両例
ホンダ CBR1000RR　ヤマハYZF-R6　スズキ GSX-R600
ホンダ CB1300SF　ヤマハ XJR1300　スズキ GSF1200　カワサキ GPZ900　ドゥカティ 999S
ドゥカティ 1098S　アプリリア RSV1000R　ホンダ VTR1000SP1

【FUN&RUN Mix Small】

いわゆるシングルや小排気量車、すなわち排気量が2st250cc/4st 400cc以下で、ホイールサイズが16インチ以上の一般生産型市販車、単気筒および2気筒エンジンを搭載するバイク、そして400cc以下と　2ストローク250cc公道用一般車両と車両が対象。
一世を風靡したレーサーレプリカなど個性的なバイクが参加します。排気量と気筒数により、Small I、Small IIと参加車両のカテゴリーが　分かれています。

●参加車両例
ホンダ NSR250SE　ヤマハ TZR250RS　ヤマハ SRX600　スズキ SV400S
ホンダ CBR400RR　カワサキZXR400R

【ST250】

鈴鹿サンデーロードレースで2010年に入門クラスとして新設され、適度なパワーや低コストで参加できることなどから、現在最も注目を集めてきているクラス。4ストローク145cc以上250cc（最大2気筒）以下の公道用一般車両をベースとし、ストッククラス＝最小限の改造とコストで参加できる参加型レースを基本理念としています。現在はファンランでの開催となっています。

●参加車両例
カワサキ Ninja250R　ホンダ VTR250　ホンダ CBR250R　ヤマハYZF-R25　Megelli250r

イベント全体概要報告

5カ月ぶりにリスタートした“ファンラン”
夏の暑さに負けない熱くて激しいバトルが展開された!!

今シーズンの鈴鹿サーキットにおける2輪レースが例年通り「FUN & RUN! 2-Wheels（通称“ファンラン”）」からスタートしたのは3月28日（土）のことだった。その後、国内外における新型コロナウィルス感染拡大の影響を受け、鈴鹿サーキット全体が休園に。感染予防の取り組みを実施した上で5月29日（金）より「ゆうえんちモートピア」、6月1日（月）より国際レーシングコースの営業を再開した。

ただし、予断を許さない状況は変わらず、レースやイベントを本格的に再開できたのは7月に入ってから。これにより、6月13日（土）に開催予定だった“ファンラン”の2020年シーズン第2回大会も中止となった。そして、8月8日（土）の第3回大会よりついに“ファンラン”がリスタートした。入場ゲートにおける検温の実施、レース参戦者に限定したパドック内ではマスクの着用やソーシャルディスタンスを確保することなど、考えうる感染予防対策を講じて開催したこのイベントでは、様々なカテゴリーのレースやタイムアタックが行われた。

普段乗っているバイクでそのまま参加できるため、“ファンラン”開催当初から高い人気を誇ってきたタイムアタック競技の「ROAD STAR」クラスには合計44台が参加。このカテゴリーにはビッグネイキッドのホンダCB1300スーパーボルドール、ツアラーのカワサキZX-14R、ストリートファイター的なモデルであるKTM SUPER DUKE Rや同790 DUKE、ドゥカティ・ストリートファイターで参戦するライダーも。このように思い思いのバイクで参戦できるのも“ファンラン”の魅力だ。

また、国内外メーカーのツインバイクやビッグネイキッド、レーサー、市販車など、4ストローク401cc以上のマシンが入り乱れてバトルを展開する「FUN & RUN Mix Big」クラス、2ストローク250cc／4ストローク400cc以下のシングルや小排気量車による「FUN & RUN Mix Small」クラス、4ストローク145cc以上250cc以下の一般公道用マシンによって争われる「ST250」クラスの3カテゴリーも注目を集めた。5カ月ぶりの“ファンラン”ということで、「ROAD STAR」クラスと「FUN & RUN Mix Small」クラスなど、複数カテゴリーにダブルエントリーするライダーも見られた。

昨今の“ファンラン”ではチームエントリーでシリーズ戦を戦える「NEO STANDARD」クラスも人気を集めている。2010年にスタートしたこのカテゴリーは参戦マシンが比較的リーズナブルな価格帯で販売されており、参戦しやすいことに加え、スプリントレースでありながらレース途中でのライダー交代またはピットインが義務付けされており、セミ耐久のような楽しみ方ができるのも特徴。2018年シーズンからは「BMW G310R」クラスが新設され、さらに魅力が増したこのカテゴリーには合計55台が参加。新型コロナウィルス感染拡大の影響を受けて開催が中止となった鈴鹿Mini-Moto 4時間耐久ロードレースへの参加を予定していたであろうチームも参戦し、熱く激しいバトルが展開された。

今シーズンの“ファンラン”も残すは9月12日（土）に開催予定の最終戦のみ。ナンバー付き車両によるレース競技の「ROAD STAR WARS」クラスが今シーズン初開催されることに加え、「Full Course Special」という名の通り、国際レーシングコース／フルコースを使って争われる一年に一回の特別な“ファンラン”ということでも注目を集める。いつも以上に盛り上がりそうな次戦にも是非注目していただきたい

ROAD STAR EXPERT I　決勝スタート直前

レースレポート-1【タイムアタック形式競技】

ROAD STAR I／
ROAD STAR CHALLENGER I／
ROAD STAR EXPERT I

ROAD STAR EXPERT Iのタイムアタックからスタート。まず瀬辺毅と早川泰治が1分を切る58秒台をマークする。西溜英夫がコースイン3周目に57秒685をマークしてタイミングモニターのトップに。瀬辺が56秒696、早川が56秒717をマークしてそれを上回る。早川が14周目にマークした56秒549がトップタイムとなった。

続いて行われたROAD STAR CHALLENGER I／ROAD STAR Iでは中谷和洋が1分を切る59秒021をマーク。溝口裕史が59秒507を、谷村尚彦が59秒642をマークして中谷に続くが、宮脇重光が59秒261をマークして中谷と溝口の間に割って入る。結局、中谷の59秒021がROAD STAR Iのトップタイム。ROAD STAR CHALLENGER Iでは十川昌也がマークした1分00秒595がトップタイムとなったが、十川は特別規則第1章第2条～6)により、ラップタイムが1分6秒未満のため賞典外特別参加に。古田剛の優勝が決まった。

※掲載の仮表彰画像は、複数クラス・カテゴリーの合同で実施したこともあり、実際の正式リザルトと異なっていたり、クラスを誤ったクラスで参加したりするクラスがあります。
あらかじめご了承ください。
なお、正式リザルトは、リザルトページ
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/
でご確認いただけます。

ROAD STAR EXPERT I総合表彰式　（優勝：早川泰治、2位：瀬辺毅、3位：冨戸野徹）
ROAD STAR EXPERT Iカテゴリー別表彰式　（C1優勝：早川泰治、C2優勝：岡村一秀、C3優勝：前原匡志）

ROAD STAR I総合表彰式　（優勝：中谷和洋、2位：宮脇重光、3位：溝口裕史）
ROAD STAR Iカテゴリー別表彰式　（C1優勝：宮脇重光、C2優勝：谷村尚彦、C3優勝：中谷和洋）

ROAD STAR CHALLENGER I総合表彰式　（優勝：十川昌也、2位：須藤清昌、3位：中川進）
ROAD STAR CHALLENGER Iカテゴリー別表彰式　（C1優勝：須藤清昌、C2優勝：十川昌也）

2020 FUN&RUN! 2-Wheels 3
in SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE
RACE // ROAD STAR // NEO STANDARD
8 Sat. August

レースレポート-2【タイムアタック形式競技】

ROAD STAR II／ROAD STAR EXPERT II

15分間によるタイムアタックがスタート。坂之下孝秀がトップでメインストレートに戻ってくる。その坂之下がコースイン2周目に1分01秒586をマーク。タイミングモニター上でトップの座を守る。加藤久幸がそれを上回る1分00秒370をマーク。柴田直行がその時点で唯一1分を切る59秒735をマークしてトップに立つ。加藤は1分00秒060をマークして自己ベストを更新。加藤は6周目に59秒575をマークして1分の壁を破る。加藤はさらに58秒967をマークすると、そのままペースを落としてピットイン。加藤の総合優勝とROAD STAR EXPERT IIのクラス優勝が決まった。総合2番手タイムの柴田が賞典外特別参加のため、ROAD STAR IIのウィナーは川島隆昌となった。

ROAD STAR II総合表彰式　(優勝：坂之下孝秀、2位：川島隆昌、3位：明後邦彦)
ROAD STAR IIカテゴリー別表彰式　(C5優勝：坂之下孝秀、C7優勝：長谷部忠雄)

※掲載の仮表彰画像は、複数クラス・カテゴリーの合同で実施したこともあり、実際の正式リザルトと異なっていたり、クラスを誤ったクラスで参加したりするクラスがあります。
あらかじめご了承ください。
なお、正式リザルトは、リザルトページ
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/
でご確認いただけます。

ROAD STAR EXPERT II総合表彰式　(優勝：加藤久幸、2位：高村信二、3位：赤澤宏匡)
ROAD STAR EXPERT IIカテゴリー別表彰式　(C4優勝：高村信二、C5優勝：加藤久幸、C6優勝：赤澤宏匡、C7優勝：廣田茂)

レースレポート-3【レース形式競技】

NEO STANDARD＜Ninja250R／YZF-R25＞

ポールポジションからスタートした中村和悦、2番グリッドスタートの平山美奈／福山京太組の福山、6番グリッドスタートの石崎篤のオーダーでオープニングラップを終了。中村と福山はレース序盤から周回ごとに順位を入れ替える激しいバトルを展開する。前回クラス2位だったため、12番グリッドからのスタートとなった松浦光利が4周目終了時点で早くも2位まで浮上。松浦は6周目にトップに立つと、次第に単独状態になる。その後方で鳥居典生、中村、杉島潤の3台が2位グループを形成。トップグループでは松浦がいち早くピットに入る。レース中盤に杉島が転倒。中村、花田定夫、山本晃久が21周目終了時点でピットへ。暫定トップとなった鳥居は22周目終了時点でピットに入る。

松浦が総合トップチェッカーを受けると同時にYZF-R25クラスのウィナーに。4位でチェッカーを受けた花田がNinja250Rクラスを制することとなった。

NEO STANDARD＜Ninja250R＞表彰式
（優勝：花田定夫、2位：山本晃久、3位：石崎篤）

NEO STANDARD＜YZF-R25＞表彰式
（優勝：松浦光利、2位：鳥居典生、3位：中村和悦）

2020 FUN&RUN! 2-Wheels [3]
in SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

RACE // ROAD STAR // NEO STANDARD

8 Sat. August

レースレポート-4【レース形式競技】

NEO STANDARD
＜CBR250R／VTR250／G310R＞

ポールポジションスタートの前田誠司／栗田学組の前田がホールショットをゲット。その前田、2番グリッドスタートの中川比呂／藤村太磯組の藤村のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。前田と藤村はレース序盤から周回ごとに順位を入れ替えるバトルを展開しながら後続を引き離すことに成功。そこから若干離れて原田悠平／有吉輝吉組の原田、鈴木克正がこちらも激しくバトルを繰り広げながら3位グループを形成する。原田、鈴木に江崎紗驚／玉田敬済組の玉田が接近。玉田は鈴木、原田を立て続けにパスする。次第に藤村が前田を引き離すと、13周目終了時点で藤村がピットイン。中川にライダーチェンジする。同じく13周目終了時点で前田もピットに入り、栗田に交代する。

結局、鈴木が総合優勝を飾ると同時にCBR250Rクラスのウィナーに。前田／栗田組がG310Rクラスを、高橋潤がVTR250クラスをそれぞれ制した。

NEO STANDARD＜CBR250R＞表彰式
（優勝：鈴木克正、2位：原田悠平／有吉輝吉、3位：江崎紗驚／玉田敬済）

NEO STANDARD＜VTR250＞表彰式
（優勝：高橋潤、2位：上村真、3位：久家侑）

NEO STANDARD＜G310R＞表彰式
（優勝：前田誠司／栗田学、2位：佐々木龍人、3位：谷村尚彦）

レースレポート-5【レース形式競技】

FUN & RUN Mix Small／EXPERT

ホールショットを奪ったのは2番グリッドスタートの髙村一明。しかし、すぐにポールポジションスタートの岸田尊陽が髙村をパスする。岸田、髙村のオーダーでオープニングラップを帰ってくると、2周目の1コーナーで髙村が岸田をパス。髙村が徐々に岸田以降を引き離しにかかる。その後方で岸田、宮島伸也、大竹洋司の3台がテールtoノーズのバトルを展開。宮島が7周目の1コーナー進入で岸田をパスすると、宮島は髙村の背後にも接近していく。8周目のS字コーナーで髙村を捉えた宮島は同じ周のショートカットでこれをパス。しかし、髙村がトップでファイナルラップへと突入していく。そのまま髙村が総合優勝。宮島が2位で、大竹が3位でそれぞれチェッカーを受けた。

FUN & RUN Mix Small総合表彰式（優勝：髙村一明、2位：水本茂樹、3位：飛田景行）
FUN & RUN Mix Smallカテゴリー別表彰式（FUN & RUN Mix Small I優勝：髙村一明、FUN & RUN Mix Small II：紀典和）

※掲載の仮表彰画像は、複数クラス・カテゴリーの合同で実施したこともあり、実際の正式リザルトと異なっていたり、クラスを誤ったクラスで参加したりするクラスがあります。
あらかじめご了承ください。
なお、正式リザルトは、リザルトページ
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/
でご確認いただけます。

FUN & RUN Mix Small EXPERT総合表彰式（優勝：宮島伸也、2位：大竹洋司、3位：清水誠）
FUN & RUN Mix Small EXPERTカテゴリー別表彰式（Small I EXPERT優勝：宮島伸也、Small II EXPERT：矢野正幸）

ST250

ポールポジションスタートの竹田透がスタートで出遅れる。2番グリッドスタートの長治蒼平が良いスタートを切ると、トップでオープニングラップを終了。それに高木真、浅野学と続く。長治は次第に単独トップに。 高木、浅野も単独2位、単独3位となる。そこから若干離れ、スタートで出遅れた竹田が単独4位を走行。5周目になると竹田が浅野のテールを捉える。6周目のメインストレートで竹田が浅野をパスして3位に。竹田は7周目の1コーナー進入で高木をパスして2位に浮上すると、トップの長治にも接近していく。竹田が9周目に長治をパスしてトップに立つが、長治が再びトップに。 結局、竹田がトップチェッカーを受けたが、竹田は賞典外特別参加。長治の優勝が決まった。

ST250表彰式
（優勝：長治蒼平、2位：浅野学、3位：小池信一郎）

レースレポート-6【レース形式競技】

FUN & RUN Mix Big／EXPERT

ホールショットを奪ったのは2番グリッドスタートの池主永。その池主がオープニングラップから後続を引き離しにかかる。それに井沼真樹、片岡亮太、星山浩久、白石克郎、野々村誠司と続いてオープニングラップを帰ってくる。井沼は3周目に池主の背後に接近。片岡が単独3位となる。5周目になると池主が再び井沼を引き離すことに成功。　井沼が単独2位となる。折り返しを迎える頃にはレースは膠着状態に。結局、池主が8秒316ものアドバンテージを築いてトップチェッカーを受けたが、池主は賞典外特別参加。　2位でチェッカーを受けた井沼は特別規則書 第12条～3)③ (燃料規定)により失格に。白石が総合優勝を飾ると同時にOPEN EXPERTクラスのウィナーに輝いた。

FUN & RUN Mix Big総合表彰式　(優勝：片岡亮太、2位：清水義之、3位：山口慎太郎)
FUN & RUN Mix Bigカテゴリー表彰式　(OPEN優勝：片岡亮太、BIG II優勝：清水義之)

※掲載の仮表彰画像は、複数クラス・カテゴリーの合同で実施したこともあり、実際の正式リザルトと異なっていたり、クラスを誤ったクラスで参加したりするクラスがあります。
あらかじめご了承ください。
なお、正式リザルトは、リザルトページ
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/
でご確認いただけます。

FUN & RUN Mix Big EXPERT総合表彰式 (優勝：井沼真樹、2位：白石克郎、3位：高橋洋之)
FUN & RUN Mix Big EXPERTカテゴリー表彰式 (OPEN EXPERT優勝：井沼真樹、BIG I優勝：中尾高広)

※井沼真樹は燃料規定違反のため、失格。正式結果は以下の通り
FUN & RUN Mix Big EXPERT総合結果　(優勝：白石克郎、2位：高橋洋之、3位：野々村誠司)
FUN & RUN Mix Big EXPERTカテゴリー別結果　(OPEN EXPERT優勝：白石克郎、BIG I優勝：中尾高広、BIG II優勝：増田訓士)